令和２年度　第１回裾野市上下水道事業審議会　会議録及び議事録要旨

日　時：令和２年１２月８日（火曜日）　午前１０時から午後１２時２０分まで

会　場：裾野市役所４階４０１会議室

出席者：委員９名（順不同）

・三明　正明　委員（裾野市東地区区長会）
・土屋　篤男　委員（裾野市西地区区長会）
・荻野　哲　委員（裾野市深良地区区長会）
・臼井　正明　委員（裾野市富岡地区区長会）
・杉山　幸彦　委員（裾野市須山地区区長会）
・渡邊　康一　委員（裾野市商工会）（副会長）
・増田　喜代子　委員（裾野市婦人会）
・水原　由起子　委員（裾野市消費者団体協議会）
・齋藤　利晃　委員（日本大学理工学部土木工学科教授）（会長）

事務局　10 名

・髙村裾野市長（諮問まで）
・篠塚環境市民部長
・細井水道事業管理監
・中野上下水道工務課長
・服部上下水道工務課主幹
・芹澤上下水道工務課主幹
・柏木上下水道経営課係長
・鎌野上下水道経営課主席主査
・勝又上下水道経営課主査
・眞田上下水道経営課主任

傍聴者：２名（内報道機関　１社）

次　第　　進行：細井水道事業管理監

１　開　会（省略）
２　委嘱状交付（省略）
３　市長あいさつ（省略）
４　自己紹介（省略）

５　会長及び副会長選出（会長：齋藤利晃委員、副会長：渡邊康一委員　選出）
６　会長及び副会長あいさつ（省略）
７　諮問
⑴　裾野市簡易水道事業経営戦略策定について
⑵　裾野市水道事業及び裾野市公共下水道事業の経営状況の確認について。
８　議　事
⑴　審議会の公開・非公開について
⑵　裾野市簡易水道事業経営戦略（案）について
⑶　裾野市水道事業及び裾野市公共下水道事業の経営について
９　その他
今後の上下水道事業審議会の日程について
・第２回審議会　令和３年２月１６日（火曜日）午前１０時から
裾野市役所４階４０２会議室
・市長への答申　令和３年３月８日（月曜日）午後１時３０分から
10　閉　会

『議事の要旨』

議事に入る前に議長より、本審議会は委員総数９名のうち９名が出席のため、裾野市上下水道事業審議会条例第６条第２項の規定により、会議が成立していることの報告があった。

【議事１】審議会の公開、非公開について

事務局案を説明し委員質疑なし。下記のとおりとなった。
・今年度は基本的に会議を公開、議事録は要旨公開とする
・次年度以降も原則公開とするが、審議の中身により、非公開とすることもあり得る

【議事２】裾野市簡易水道事業経営戦略（案）について

裾野市簡易水道事業経営戦略（案）を説明する前に、資料No.４公営企業会計適用（複式簿記導入）の意義と効果について事務局より説明。委員より特に質疑はなかったため、裾野市簡易水道事業経営戦略（案）について事務局より説明。説明の後、次のような質疑応答がされた。

＜委員＞

経費等、水道料金で賄えないならば、料金を上げるしかない。近隣の状況をみながら、料金の見直しを考える必要がある。そのへんはどのように考えているのか。

＜会長＞
　統合を前提とした上での値上げの話なのかそれとも、そうでないか。

＜委員＞
　統合は関係ない。

＜事務局＞
　料金改定については何年か前に１度検討したことはある。しかし、今この有収率で無駄な経費がかかっている以上、経費削減をもっと優先させるべき。その後、もう１度考えるべきではないかと考えている。

＜委員＞
　経費削減というが、なんの経費削減か。

＜事務局＞
　主に電気料金である。

＜委員＞
　電気料金を削減するならば、ポンプを新しいのに改善していくしかない。やはり料金改定はやむを得ないのではないか。また、料金徴収に関しては民間に委託しているが、維持管理については水道法でいえば水道技術者を置かなければならないこととなっている。その担保はどのようになっているか。現在、水道技術者は何人いるのか。
＜事務局＞
　水道技術者については、現在水道庁舎には二人おり、上水道事業と十里木高原簡易水道事業でそれぞれ分けて担当している。

＜会長＞
　現在、十里木高原簡易水道利用者は市の水道に比べて、５割増し位の料金となっている。そのような状況でも経費の回収はできていないというデータがあり、委員よりもう少し料金を改定せざるを得ないだろうという話があった。一方漏水も多く、非常に給水原価が高くなっているという現状がある。そこを改善しなければいけないという委員からの話だった。

＜委員＞
　市内の管路については老朽化が進んでいるため改善していくのはもちろん、有収率を上げるには無駄な部分の電気料を減らしながら有収率を上げていくのが一番よいだろう。
　効率的な水源地を新たに掘って、古いものは廃止するという大胆なことを考えていくべ

き。特に、十里木高原簡易水道については、１３ページにあるように配水区域図の中に新水源地の候補地として、３５０ｔ配水池のところに赤い印があるが、ここに早く井戸を掘るべき。

この新水源地の話は１０年前と変わらない。ここに新水源地を整備すれば当分持つだろう。第１水源、第３水源、第５水源とあるが、そこから取水した水を上の方に上げているが、水を上げる段階で洩れてしまう。だから、早く新水源を整備する必要があるが、いつ整備するかという実行計画が何もない。十里木高原簡易水道事業は、まず新水源地の整備をして、その他のところは手がつけにくいため、漏水が出た段階で直していくというスタイルしかないだろう。新水源地の整備を、いつどこで何をやるか。資金調達ができたらやるとか。市として、第一優先でやるべきことを借金してでもやるとした方がよいだろう。

＜事務局＞

十里木高原簡易水道については、漏水や料金が高い等色々あり、裾野市の水道との料金格差の問題もあるため、料金を上げることは難しい。一方で、経費を削減するにしても、現状、汲み上げた水のだいたい２０％代しかお金をとれない状況であるため、７割以上の水を捨てているような状況となっている。漏れている部分を直すにはどのようにするかというと、漏水箇所の管路を直すことと、どのように水を流すかという配水系統を検討していく必要がある。

また、案は持っているが、資金計画が立たない状況のため、資金計画が可能となった段階で最優先に手を付けたい。現在の資金の中でできることは限られているため、まずは漏水箇所の修繕を続けていくことが市役所の方針となる。

その中で、将来的に上水道事業との統合ということがあるため、十里木高原簡易水道事業へ単純に井戸を掘るためのお金を融通すると、最終的にはどこかが負担しなければならなくなる。それが一般会計からの繰入金なのか、裾野市の水道と統合して返していくのかというのは今後の課題であるため、今回統合という形で経営戦略を作成した。

現在、どのような形にするのが一番よいか検討段階で、資金計画がないと事業に着手できないというところである。

＜委員＞

データをみると、１４０ｔタンクの系統が一番漏水がひどいということになっている。開発状況をみると、１３０ｔタンクと１４０ｔタンクは施工時期が昭和４２年で同じある。

しかし、１４０ｔタンクの方が漏水している。１４０ｔタンクは冬季に凍る等、特別な環境の悪さとかあるのか。また、その原因について把握しているか。

＜事務局＞

はっきりとした理由は不明である。漏水調査を実施しており、調査結果の中で漏水の大き

いところだけ選定して修繕しているが、それでも改善されないため、別の配水系統図に問題があるのかなと考えている。

＜委員＞
十里木高原簡易水道は配水系統、管路が非常に複雑で、路盤も悪い。当時、富士急行が作ったものを市が無償で引き受けたものである。

＜委員＞
今後優先順位的なものがあり、何年何月のどの時期にこれをやるというものがあるならば、はっきりした理由を明記して料金の値上げを早急にして、新水源地の着工にかかった方がよいのではないか。
また、電気料金の話を聞いている中で、現在色々なところに設置されているソーラー発電のようなことを水道でもできないかと感じた。例えば、市内には工業団地も含めて色々な企業があり、そのような企業とうまくコラボし、そこで汲み上げた水を居住地へ回せるような取り組みをする等、市だけが給水事業をやるのではなく、もっと全体を広げた中で、視野を広げた検討ができないか。そうすれば、電気料金にしても、水道料金の値上げにしても、何かうまくできないのかなと感じた。

＜事務局＞
新水源の整備について、十里木高原簡易水道料金でできないかという話だが、簡易水道事業の年間収入というのは３千万程度しかない。井戸を一本掘ると一億程度費用がかかるため、値上げをしてその差額を積み立てたとしても、予定額まで貯めるにはかなりの年数がかかってしまう。
そのため、十里木高原簡易水道料金で井戸を掘る財源を確保するというのは難しい状況となっている。市としても、新水源は整備しなければならないという認識はあるが、財源の確保ができないため、どのような財源があるか現在一生懸命考えている。少しでもきっかけがあれば、それに飛びついてなんとか財源を確保しようと考えている。
また、ソーラー発電のように企業とのコラボは、水道という特性上、一緒に組んで何かやるというのは、水を配るという意味では難しいのではないかと考える。十里木高原簡易水道で使用する電気を供給するため、企業と一緒に発電施設を作るというものには可能性があると考える。
しかし、現在十里木高原簡易水道で使用している電気に関しては、富士急行全体で契約している電気会社の電気を使用している。富士急行全体で契約しているため、スケールメリットが働き、個別で契約するより安く供給できているため、安くできるものについてはなるべく活用していきたいと考えている。
また、企業と一緒に何か投資をして事業をするとなると、先ほども申したように水道事業

という特性上難しいところがあるため、今後、収入増になるものや、経費削減できるようなものがあれば積極的に活用したいと考えていきたい。

＜委員＞

１０年以上前にこの審議会に関わったことがあるが、その時に聞かされた内容と全く同じである。その時も、上に水を引き上げているから電気代が余分にかかり、余分な電気代をずっと支払っているという状況にあることを聞かされて、問題提起も同じである。資金の問題や、民間の開発したところだから色々複雑であり、なかなか手を付けられないと思うが、早く新水源を整備して無駄な電気料金を抑えた方が効率がよいのではないかと思う。

新水源を整備することで、この先１０年、２０年と高い電気料金を払い続けるのと、新水源を整備した時に、どれだけ電気料金が削減できるのかという比較とかあればわかりやすい。

また、水道料金を上げるとなれば、他市町の水道料金との比較があればよいのではないか。当時もそのようなものを見たことがある。パターンをこうした場合水道料金はこれだけ上がるが、他市町と比較した時そんなに差がなければ、料金改定はせざるを得ないのではないかと思うので、先の見通しまで見据えた資料等も提供してもらいたい。

＜委員＞

十里木高原簡易水道の問題は自分が議員をやっていた２０年前とほとんど変わらない問題である。今回１０年位経過しているが、まだ何も変わっていない。今、ここで討議してよいものなのかどうか。例えば、議会で市議会議員に状況や問題等を伝えてから審議するとか。この審議会で新水源作れとか管理棟新築したいというように答申したら決行されるのか。審議会の位置付けはどうなっているのか教えてもらいたい。

＜会長＞

この審議会の意見自体が生かされていくのかどうかという意見である。今の話については、事務局に答えてもらうことが望ましい。審議会の位置付けや、答申がどのように活用されていくのかについて。

＜事務局＞

十里木高原簡易水道の問題については、確かに２０年前から状況は変わっていない。十里木高原自体が富士急行の開発地であり、富士急行の運営ということで富士急行に丸投げしていた部分が多々ある。

しかし、今年度地方公営企業法を適用して裾野市の簡易水道事業として運営するという位置付けになった。そのため、今までのように富士急行が管理しているから富士急行に任せておけばいいというわけではなく、裾野市が関与して裾野市の事業としてしっかり運営し

ていくこととなった。法適用化に伴い、新しい経営戦略という計画を立て、経営を立て直していくことを目的として、ここでスタートをきることとなった。

＜委員＞
今年から審議会重視ということはわかった。この審議会がとても重要となるということである。市当局かあるいは議会がこの大きな問題をなぜ今までほっておいたのかがわからないが、それを受けて今年の審議会で結論を出してしまってよいのか。

＜事務局＞
先ほども申したが、資金計画は難しいものであり、今できることが何かということを考えたうえで、この経営戦略を作成した。計画期間中、補助金等使えるお金があれば途中で計画を変えて運営していけるような形で考えている。

＜委員＞
宝くじが当たるような話ではだめだ。十里木高原簡易水道の全部の管路を直すのは無理である。だから、漏水しているところを直していくのは仕方ないことである。新水源を整備して、高低差を利用した、一番理にかなった配水方法にするため、新水源整備に早く手を付けるべき。それは昔も変わらない。
資金については、ぎりぎりの借金をしてもいいから新水源を整備すべきであり、例えば富士急行から負担金をもらう等、やり方はある。そのようなことを考えながら運営していくべきである。

＜委員＞
この審議会の目的は、答申として出してもよいということか。

＜事務局＞
十里木高原簡易水道事業については、法適用化したため会計のやり方が変わった。また、今回計画も立てるという方向である。十里木高原簡易水道事業の最重要課題は何かとか、何を早くやらなければならないか、優先度は何かとか、そのようなことをしっかり考えて、特化していくという段階に来ているというように考えて受け止めている。
審議会において出していただいた意見をしっかりと受け止めて、動くことはしっかり動きたいと考えているので、今後も今のようなご審議を続けていただきたい。

＜委員＞
事務局が言えないから、こっちからやりなさいと言っている。当面、他のところはさておいても、ここだけ最優先でやりたいよと、だから一般会計からなんとかしてくれと頼んでも

よいのではないか。５年がかりで例えば１千万ずつ積み立てして５千万貯めて、そこから５千万だすとか色々やり方があるのではないか。一回の事業で１億出せというわけではない。やり方は色々あるため、工夫しなさいということ。

＜事務局＞
諮問を受けて、今できないことや何が問題であるか、そういうことを返答するということも、当然事務局の方で出てきている部分があるため、それはその時にしっかり説明させてもらう。

＜委員＞
他市町の料金や我々が理解するのに必要な資料、新水源を整備しましょうと長年言っていることだが、もう少しそのへんに対して、最終的には値上げという話になるのかもしれないが、ここで全部すぐに答えを出すのではなく、もう少し議論を重ねるべきではないか。そのため、もう少し理解しやすい資料を用意してもらい、それを見てからでよいのではないか。

＜会長＞
今回配布されている経営戦略は新しい水源の話も出ているが、現状を修繕等で対処し、経営を安定させて、そこから新水源を整備するということで、新水源を整備することを完全に取り入れた提案ではないという理解でいる。ここにいる委員の方々は、新水源の整備を念頭に考えた経営戦略を求めているのではないか。新水源を整備するためのお金の収支のこと等を組み込めないだろうかという意見ではないか。
次回、新水源を整備するということに対してどういう資金的なアプローチに取り組むのかというところを、いくつかシナリオを考えてもらい、先延ばしになり、垂れ流しになってしまっている部分の場合のトータル的な比較ができるといいのではないかという話もあった。新水源を整備することを考えたシナリオをいくつか考えてもらい、現在のような形で先延ばしにしている感じではあるが、その場合と最終的な料金負担の比較等、そのようなことが何かできればよいのかもしれないと感じたので、ぜひ検討いただきたい。

【議事３】裾野市水道事業及び裾野市公共下水道事業の経営について
１　裾野市水道事業の経営について事務局より説明。説明の後、次のような質疑応答がされた。
＜委員＞
老朽化に伴う更新が長くかかるという、ずいぶん暗い話があるが、その中でやはり職員の数が少ない。県内でも３番目に少ないということだが、一方で、漏水箇所がかなりある。そのような箇所は全て把握できていないということだが、漏水をどのように調査しているのか。

＜事務局＞
　市内には全部で１０個の水系があり、水系ごとの有収率を２か月に１回算出している。その中で特に有収率の低い配水系統を選定して修繕している。

＜委員＞
　それをどのように調査しているのか、調査方法を教えてもらいたい。

＜事務局＞
　有収率の特に低かった地区の漏水調査業務委託を実施し、実際に漏水している箇所を出し、そこを中心に修繕を行なっている。
　配水池ごとに配水量といい、水量を量っている機械があります。その数字と各家庭にある水道メーターで実際に使用した水量を量り、それらの数字を割り算したものが有収率となる。

＜委員＞
　主配管があり、送水している水の量と各家庭が使用している量が合わないため、途中で漏水しているという判断ということか。科学的に、機械で透視できるような調査は実施しているのか。

＜事務局＞
　実施していない。

＜委員＞
　漏水調査専門の人を増やし、漏水個所を見つけて、的確に修繕する方がよいのではないかと感じた。

＜事務局＞
　漏水について、道路内にある水道本管の中で、老朽化した管は直接裾野市が修繕している。一方で、道路内にある水道本管から、各家庭に引いている給水管というものがあるが、その給水管が漏水しているところが多くある。
　道路内にある水道本管から個人宅に引き込む管は個人管となる。給水管は、各家庭にある水道メーターに接続され、使用した水量を計測しているが、水道メーターの前で漏水している状況がかなりある。
　水道メーターの前で漏水していると、個人管のため市では修繕できない。そのようなところは、家の建て替え時等に漏水がわかったりするが、比較的水道管は前のものをそのまま使

用し、家だけ建て替える場合が多い。市の指導としては、給水管もしっかり直すよう依頼はしているが、個人の持ち物のため、直す人もいるし直さない人もいる。

＜委員＞
　話を聞いた感じだと、水道本管より個人の配管からの漏水の方が多いのかなとイメージしたが、各家庭の敷地からの漏水の方が実際には多いのか。

＜事務局＞
　地区でいうと、千福が丘は当初開発した当時のままの水道管だった。もともと土質も悪く、配水本管だけ一度修繕したが、有収率が上がらなかった。そこで、給水管の修繕を少しずつ進めている状況であり、当初５０％くらいだったのがここ数年で、有収率が４～５％上がったという実績があるため、やはり給水管から漏水している部分もあるということがわかった。

＜委員＞
　私が質問したのは、水道本管で漏水している方が多いのか、それとも各家庭の敷地内で漏水している方が多いのかということ。

＜事務局＞
　どちらが多く漏水しているかは、はっきりとわからない。

＜会長＞
　そのようなところがわかると、対策方法も色々出やすいのではないかと思う。先ほど言ったスクリーニングのような感じで漏水の多そうな水系を絞り込んで調査を実施しても、完全にどこで漏水しているかは明確にならないという理解でよろしいか。

＜委員＞
　経営戦略と謳っている以上、戦略的な案を出してほしい。例えば料金を上げた場合、これくらい料金が増えるからこれだけの事業が実施できるとか、そういった戦略的なものをもう少し出してもらいたい。だから、そのようなことを審議する場合は非公開でよいのではないか。１から１０までやれとは言わないが、ある程度こうしたらこうできる、こうしたらできないといったところを少しだしてもらいたい。次回の審議会ではそのようなことを期待したい。いきなり料金を値上げするのではなく、料金を値上げした場合こうなるといった、戦略的な経営の話になればよいと考える。

＜事務局＞

今回の審議会の議事である水道事業と公共下水道事業の経営についてというのは、昨年作成した上下水道事業の経営戦略と比較して、計画通り実施されているかの確認をしてもらうことである。経営戦略の中で一番重要なのは投資財政計画であり、どこにお金をかけて、いつどのような計画を実施するかである。経営戦略を作成してから１年が経過しているため、経営戦略で示している数値と令和元年度の決算状況等で経営状況を比較し、審議会で進捗状況等の検証をしてもらいたい。検証している中で、審議委員から意見がでれば、それらを集約して今回の答申としてほしい。答申を踏まえた上で、経営戦略やその根幹となる投資財政計画との乖離がある場合は、次年度以降の予算に反映するなど対応を検討したい。また、経営戦略は、概ね５年に１度改定するタイミングがあるので、見直すべき内容については、その際の改定版の経営戦略に反映していきたいと考えている。

＜会長＞
是非、その方向でお願いしたい。１２時過ぎているが、もう一つ下水道事業がある。事務局よりお願いしたい。

２　裾野市公共下水道事業の経営について事務局より説明。説明の後、次のような質疑応答がされた。

＜委員＞
昨年も言ったが、単独浄化槽を使用している人がまだいる。その際、単独浄化槽使用者に何かペナルティをかけることはできないかと質問したが、それは無理だということだった。ペナルティがないと、急には下水道に切り替わらないと考える。下水道を使用しないと、側溝に垂れ流す形となる。強制的に下水道への切り替えをすることができないか。近所に何件かそのような人がいる。

＜会長＞
非常に大きな課題である。昨年も同様の意見を述べたということだが、事務局から何か追加することがあればお願いしたい。

＜事務局＞
ご指摘いただいたとおり、未接続世帯の存在は把握している。そのような方々には、個別に下水道への切替案内を送付する等のアプローチをし、下水道事業の必要性を理解してもらった上で下水道に切り替えてもらう。実効的なものかというと、そうとは言い切れないが、草の根的に続けていく必要があるのではないかと考えている。

＜委員＞

区の方でも直接つないでほしいと言いたいが、遺恨等が発生すると困るため、やりたくてもできない。しかし、匂いがするため、誰がつないでいないかみんなわかっているが、どうしようもない。下水道未接続者へ接続するよう努力をしていただきたい。

＜会長＞
色々な思いはあると思うが、料金負担を公平化するような形で移行できれば、うまくいくのではないかと考える。

＜委員＞
基本的には、接続しなければならないということか。

＜事務局＞
法律上は義務である。

＜委員＞
罰則はあるのか。

＜事務局＞
罰則の規定はない。

＜委員＞
下水道への接続は是非進めてもらいたい。接続していないところは水が汚いし匂いもする。

＜会長＞
いい方向にもっていくには、浄化槽を使用している方にもそれなりの負担をしてもらうことが必要になるのではないか。市が維持管理をし、浄化槽利用者はそれなりのお金を支払うといったような対応も必要かもしれない。

＜委員＞
なぜ下水道に接続しないのか。その理由を探って、例えば負担分が高すぎる等色々事情があるのではないか。そのような理由を探って、何か接続してもらえるような策を考えるのもあるだろう。

＜委員＞
一番の理由は、接続するのにお金がかかるという、すごく単純なことだと思われる。

＜委員＞
　多くの人が下水道に接続して、確かに水は綺麗になった。

＜会長＞
　やはり、接続しない原因を探る必要はあるのではないか。しかし、上下水道事業の所管部署は人員が少なく、相当手一杯の状況であると思われる。そのため、実務上難しいかもしれない。市役所の水道事業の所管部署自体が持続可能でなければならず、それはしっかりしていかなければならない。問題が色々出てきているのは間違いないため、優先順位を決めて実施することが重要である。
　皆様のおかげで活発な意見を確認することができた。ありがとうございました。職員の人数が少ない中、注文もいっぱい出て、住民からの意向もあるため、形に示していくようなものを目指していっていただきたい。
　以上で本日の議事を終了とする。